

研究タイトル

問いを見つけ、主体的に学ぶ乳の授業づくりの検討ー文化的・社会的視点からの教材開発を通してー

研究者名（所属先）

- ・藤本勇二（武庫川女子大学）
- ・松井香奈（大阪市新高小学校）

【目的】

乳の文化的・社会的視点から教材開発を行い、小学生が問いを見つけ、主体的に学ぶ乳の授業づくりを検討する。

【方法】

- ・文化的・社会的視点から開発した乳の授業を受けた小学生が、問いを見つけ主体的に学び、牛乳への関心を高めることができたかをアンケートをもとに検討する。
- ・乳にかかわる教材開発や授業実践にかかわることで、学生が乳の価値に対する理解を深めるとともに、授業実践での小学生の変容を通して、食育実践への意欲を高めることができたかをアンケートをもとに検討する。

【結果】

「牛乳はいつも同じ味？ 5年学活：牛乳の味の違いから乳牛やエサ、生育環境の違いに目を向ける授業」「北海道からの贈り物 5年社会科：安全や衛生、大量の運搬の視点からの工夫を考える授業」「牛乳工場の仕事 6年社会科：安全な牛乳を生産するために努力する人たちに姿に学ぶ授業」を学生が構想し、小学校において実践した。

小学生は、問いを引き出し主体的に学ぶ授業づくりに社会的視点から教材開発が有効であることが確認できた。

学生は、酪農乳業をテーマにした食育実践をしたいという意欲が高くなった。

【結論】

・文化的・社会的視点から開発した乳の授業の効果が明らかになった。小学生が、問いを見つけ主体的に学び、牛乳への関心を高めることにつながった。

・授業実践に学生が関わることによって、小学生の変容を通じた学生の理解や意識が変容した。乳の授業づくりのかかわった学生の食育実践への意欲の高まりが確認できた。